

渋沢奈良郷遺跡

第Ⅱ地点

(秦野市No.91 遺跡)

調査期間 20100916～20101215

所在地 秦野市渋沢字笹山

時代

旧石器
縄文
奈良・平安
中世～近世



作成日:20101215 更新:20111027

概要

秦野市渋沢に所在する渋沢奈良郷遺跡は、松田土木事務所による県道 708 号(秦野大井)整備事業に伴う埋蔵文化財の記録保存として、発掘調査が実施され、現在は出土品等整理作業を実施しています。

調査区は、秦野市渋沢と足柄上郡大井町篠窪の境界部分に位置し、標高 240mの丘陵尾根部にあたります。

調査の結果、江戸時代の溝と耕作跡、奈良・平安時代の円形土坑と耕作跡、縄文時代晩期～弥生時代初頭の炉跡、縄文時代の集石・土坑(落とし穴)・ピットと早期・前期・中期の土器や石器などが発見されています。また、旧石器時代の土層からも石器が出土しました。

江戸時代、奈良・平安時代の耕作跡などの遺構は、この場所での畑作を示し、当時の具体的な土地利用の様子を捉えることができます。

縄文時代晩期～弥生時代初頭の炉跡は、神奈川県内でも類例が極めて少なく、貴重な発見例となります。

また旧石器時代、縄文時代早期～前期までは断続的に利用されていたことが、出土土器や石器からわかります。特に縄文時代前期後半の諸磯 C 式土器は今回の調査では主体をなす出土量であり、良好な資料を得ることができました。

現在は遺物の洗い、注記、接合作業を終え、実測や分布



▲ 調査状況



▲ 縄文時代晩期～弥生時代初頭 炉跡

の検討などを行っています。そしてまとめた整理作業の成果は報告書作成に反映させていきます。



▲ 土器接合作業